

【呼吸器科】154-2【非小細胞肺癌】

(第 コース目)

*網かけ部分は必須記入事項

診療科:	病棟:
医師名:	印

身長:	cm	体重:	kg
体表面積:	m ²	Cr:	mg/dL

■レジメン 下記が1コースの投与スケジュール : 4週ごとを1コースとする

Day	1	2	8	15	22	~28
施行日	/	/	/	/	/	/
ライブリバント	↓	↓	↓	↓	↓	
ラズクルーズ(経口)	経口:連日投与					

■投与順序 ※マークは同タイミング投与薬あり

滴下順	
※①	生食 500mL 6時間
※①	同時に側管より ポラミン注5mg 1A ガスター注20mg 1A デキサート注6.6mg 1V デキサート注1.65mg 2A アセリオ点滴静注 1000mg 30分
②	生食 50mL 10分
③	●ライブリバント【 】mg 生食 236mL 投与速度は「■注意事項」参照
④	生食 50mL 10分

■投与量 ※投与量の参考

薬剤名	標準投与量
ライブリバント	《Day1》 350mg/body 《Day2》 700mg/body 《Day8,15,22》 1050mg/body
ラズクルーズ	1回240mg 1日1回

薬剤師	看護師	看護師

■注意・確認事項

- 点滴セットはフィルター付き輸液ルートを使用すること。
- ライブリバントは調製後10時間以内に投与終了すること。
- 静脈血栓塞栓症の発症を抑制するため、投与開始後4カ月間は、エリキュース錠2.5mgを1日2回経口投与すること。
- 輸液ポンプを使用すること。
- ライブリバントの投与速度
投与開始は50mL/時で開始し、Infusion reactionが認められない場合は、
投与開始2時間後に75mL/時 に投与速度を上げることができる。
- infusion reactionが認められた場合は投与を中断し、症状が回復した場合、発現時の50%の投与速度で再開する。
再開後の30分間にinfusion reaction の症状が認められない場合、中断時の投与速度まで上げることができる。
その後の2時間にinfusion reactionの症状が認められない場合、同日に予定されていた最高速度まで上げることができる。
infusion reactionによる投与中断・再開時に症状が再発した場合、投与中止を検討する。